

REPA会員情報

トップ

REPA事業関連

補助金・助成金関連

REPA講演会

霊山プロジェクト

会員からの情報

コミュニケーション

アーカイブ

庶務事項

放射線情報

放射能と生活を考える会

●第4回 放射能と生活を考える会(2012年10月27日)

第4回放射能と生活を考える会(代表: 富田英子)が10月30日18:30~21:00に、神奈川県鎌倉市の大船行政センター第2会議室で開催され、篠田淳司理事が福島県伊達市小国地区で展開中のバイオガス製造実証実験及び水田除染について報告しました。バイオガス製造実証事業は社団法人東北建設協会、水田除染は三井物産環境基金の助成を受けて今秋から本格的に展開する事業です。これらの事業は支援を受ける前からすでに着手しており、それまでの活動状況を含め現在の状況や今後の再生可能エネルギーの開発イメージについてお話ししました。会場からは、「放射能汚染された有機物を使って自ら製造したバイオガスで、ごはんを炊き上げ、みなさんが子供のように楽しみながら味わっておられる。バイオガス製造実験が地元の方の希望になっているのは本当に素晴らしいことです」との激励をいただきました。このほか、東日本大震災から1年7ヶ月を振り返って、原発問題をどう考えていかにについて情報提起させていただきました。参加者は10数名と決して多くはありませんでしたが、参加者の多くの方から活発な意見が飛び交い、予定時間を大幅にオーバーしてしまうほど、とても充実した会合になりました



●「放射能と生活を考える会」(2012年4月23日)

午前と夜の2回に分けて「放射能と生活を考える会」(代表: 富田英子)第2回学習会が鎌倉市・大船行政センターで開催されました。避難勧奨地点に指定された福島県伊達市小国地区に在住し低レベル放射能の下での暮らしを余儀なくされている大沼 豊・光子夫妻が登場し、その被害の実態や住民の困惑、暮らしぶりなどについて詳細にわたってお話しになり、参加した30人余はその実態をより身近な問題として感じ取られたようでした。大沼ご夫妻は、放射能に汚染された暮らしを打開する取組みとして当協会が進めているバイオガス製造装置による実証運転が今初夏から開始されることを明らかにされ、「これに将来の希望をつないでいます」とお話しになりました。

第2回学習会では、REPA尾園次郎副代表が、放射線の基礎知識、放射線の健康影響、放射線のリスクと便益、新食品基準など放射能に関するデータを情報提供し、これからの暮らしには「放射能そのものを多角的な視点から知る。その上でこれからの暮らしを考えてはどうか」と話しました。総合司会として篠田淳司事務局長も参加しました。



主催者富田英子氏の挨拶



モデレータの篠田事務局長



伊達市下小国地区協議会 大沼豊代表



伊達市下小国地区協議会 大沼光子氏



伊達市下小国地区協議会 大沼光子氏



REPA尾園副代表理事